

# 景気見通し調査(平成23年6月期)調査結果

福井商工会議所  
中小企業総合支援センター

## 【調査の概要】

調査時期 平成23年6月8日(水)～10日(金)  
調査方法 FAXによる送付、回収  
調査対象 福井商工会議所 会員小規模事業所より 360件を抽出  
(製造業・建設業・・・従業員20人以下の事業所  
卸・小売業、商業・サービス・その他・・・従業員5人以下の事業所)  
回答数 211件 (回収率58.6%)

	製 造	建 設	卸・小売業	サービス・ その他	合 計
5人以内	16(19.8)	24(29.6)	26(32.1)	15(18.5)	81
6～10人	14(26.9)	14(26.9)	15(28.9)	9(17.3)	52
11人以上	30(38.5)	16(20.5)	17(21.8)	15(19.2)	78
合 計	60(28.4)	54(25.6)	58(27.5)	39(18.5)	211

文中にでてくる「D I 値」とは

ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、景気動向を示す指標。「良い」「上昇」したとする企業割合から、「悪い」「下落」したとする企業割合を差し引いた値。

【調査結果の概要】

売上減少、仕入価格高止まり等 震災の影響が未だ色濃く  
～先行きの不安感和らぐも 依然震災前の水準には戻らず～

- ① 業界全体の景況 DI 値は▲69.5と前回調査（H23年3月）と比べ、1.3ポイントダウンしているものの、H22年9月期より3期連続低水準で横ばい。  
今後3ヶ月の先行きについては、DI 値は▲72.3と前回調査よりもマイナス幅が6.0ポイント改善した。
- ② 自社の景況感をみると、現在のDI 値は▲53.1となり、前回調査（H23年3月期）に比べ0.8ポイントダウンし、H22年12月期より2期連続悪化した。業種別にみても、「卸・小売業」以外の業種で悪化している。今後3ヶ月の先行DIは▲59.0となり、前回調査（H23年3月期）より8.6ポイント改善。
- ③ 売上（受注高）については、現在のDI 値は▲41.8と前回調査より12.1ポイントダウンし、H22.12月期より2期連続悪化。3ヶ月先の先行DI 値は、▲52.8と8.8ポイントの改善はしたものの、低水準で推移。
- ④ 仕入価格は現在で▲34.5、3ヶ月後の先行DIで▲41.8となり、依然低水準ではあるがともに改善傾向。
- ⑤ 採算の現在DI 値は▲50.9と前回に比べ3.7ポイントダウンし、H22年12月期から2期連続悪化、3ヶ月後の先行DI 値は▲57.0で前回比11.7ポイント改善。
- ⑥ 当面の経営課題としては、内部要因では「受注・販売量不足」「販売・営業力不足」「人材確保・育成」が上位を占めるが、「受注・販売量不足」が7.6%増加。外部要因では「同業他社との競合激化」、「価格競争激化」、「原材料高騰」が多く、特に「原材料高騰」は前回調査に比べ11.6%減少し、前回調査をピークに仕入価格の落ち着きが見られる。

⑦ 各DI 値前回調査との比較 ※－（マイナス）は悪化、＋（プラス）は改善

	業界 DI		自社 DI		売上 DI		仕入 DI		販売 DI		採算 DI	
	現在	先行	現在	先行	現在	先行	現在	先行	現在	先行	現在	先行
全業種	-1.3	+6.0	-0.8	+8.6	-12.1	+8.8	+5.2	+20.5	-5.7	-7.1	-3.7	+11.7
製造業	+2.9	+7.9	-3.1	+0.2	-15.0	+3.5	+11.2	+29.9	+2.4	+0.6	-14.2	+5.8
建設業	-20.2	+8.4	-7.0	+21.2	-12.2	+11.6	-0.6	+30.5	-23.1	-26.0	-20.2	+19.5
卸・小売業	-3.0	+3.8	+5.4	+10.6	-8.8	+5.6	+8.1	+3.7	+11.6	+10.2	+11.9	+14.9
代理店・その他	-4.0	+3.2	-8.1	+4.3	+11.5	-2.9	+3.4	+19.2	-20.3	-22.5	+11.5	+8.8

【業界別動向】

業種		キーワード		業界 (現在)	自社 (現在)	売上動向 (現在)
製造	+	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏物の売上増加(繊維)</li> <li>増産の動きあり(機械・金型)</li> <li>営業の成果反映される(機械・金属)</li> <li>新規開拓による売上好調(その他)</li> </ul>	前回 H23.3			
	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>外食産業の不振(食品)</li> <li>国内受注減少(その他)</li> <li>消費者の低価格志向(その他)</li> <li>広告宣伝費の減少(その他)</li> <li>夏季商戦の冷え込み(食品)</li> <li>季節要因による売上不調(その他)</li> </ul>	今回 H23.6	 	 	  
建設	+	<ul style="list-style-type: none"> <li>大型物件の確保予定あり</li> <li>漏水工事の増加</li> </ul>	前回 H23.3			
	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>公共工事減少</li> <li>手持ち工事少なく、動きも鈍い</li> <li>地方への景気対策期待できず</li> <li>受注単価下落</li> <li>同業との競争激化</li> <li>工期の延期・中止</li> </ul>	今回 H23.6	 	 	 
卸・小売	+	<ul style="list-style-type: none"> <li>イベントシーズンの到来</li> <li>雪害による受注増加</li> <li>経営革新取得による売上好調</li> </ul>	前回 H23.3			
	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>風評被害</li> <li>取引先減少</li> <li>今後も震災の影響懸念</li> <li>商品・部品等入荷見込み立たず</li> <li>ユーロ高によるヨーロッパでの受注停滞</li> <li>先行き不透明</li> </ul>	今回 H23.6	 	 	 
サービス・その他	+	<ul style="list-style-type: none"> <li>円高による輸出不振</li> <li>出店が少ない</li> <li>震災によりレジャー控え</li> <li>輸送数量減少</li> </ul>	前回 H23.3			
	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>ネットでの受注好調</li> </ul>	今回 H23.6	 	 	 

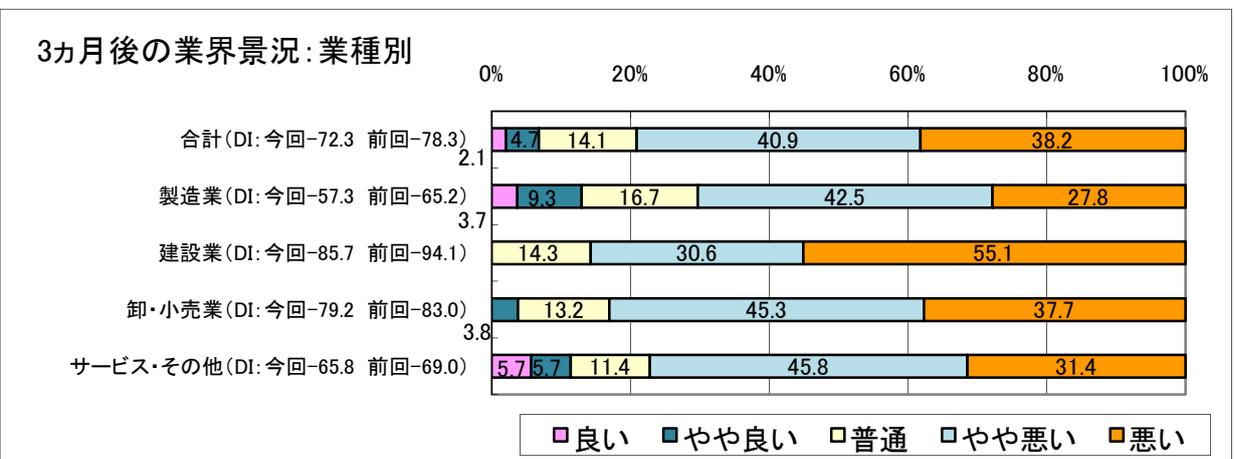
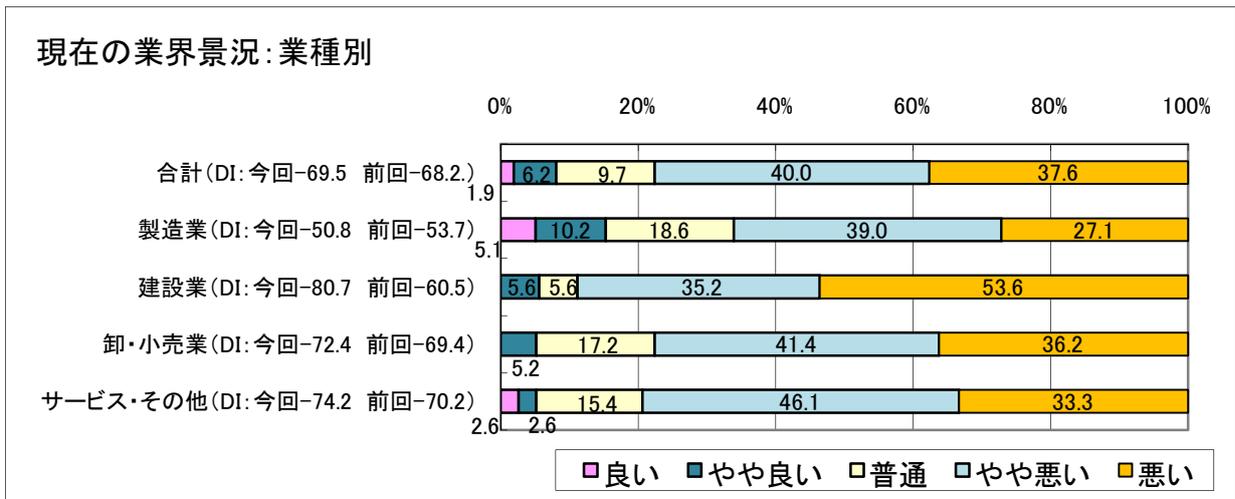
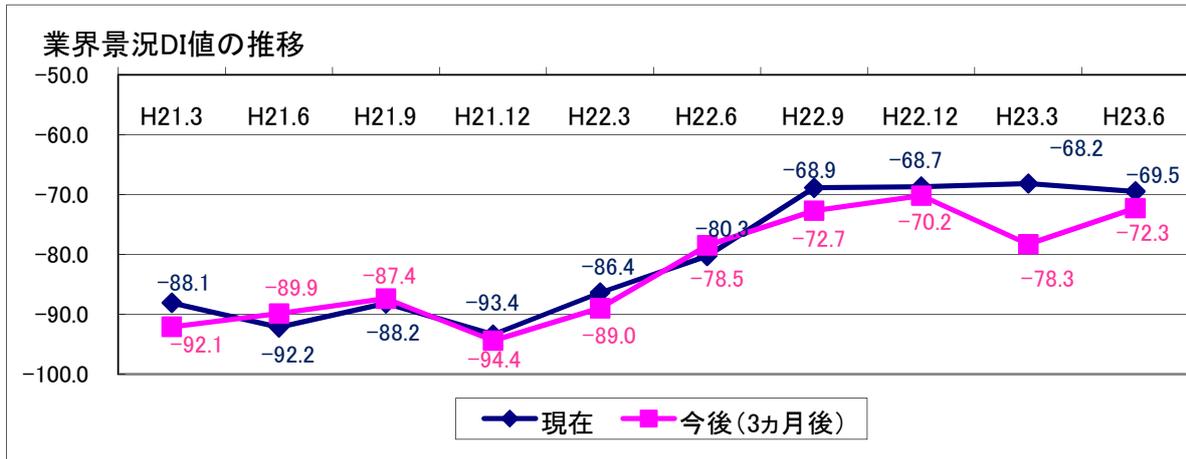
DI値	天気	DI値	天気	DI値	天気
20.1 以上		5.0~▲5.0		▲20.1~▲40.0	
5.1~20.0		▲5.1~▲20.0		▲40.1 以下	

## 【業界の景況】

～3期連続 低水準で横ばい 「先行き」 やや改善するも未だ低水準～

業界全体の景況 DI 値は▲69.5 と前回調査（H23年3月）と比べ、1.3ポイントダウンしているものの、H22年9月期より3期連続低水準で横ばい。

今後3ヶ月の先行きについては、DI 値は▲72.3 と前回調査よりもマイナス幅が6.0ポイント改善した。震災直後に行った前回調査に比べると、「現在」と「先行き」の幅の開きが小さくなったことから、先行きの不安感は軽減したものの、依然低水準での推移を予想。

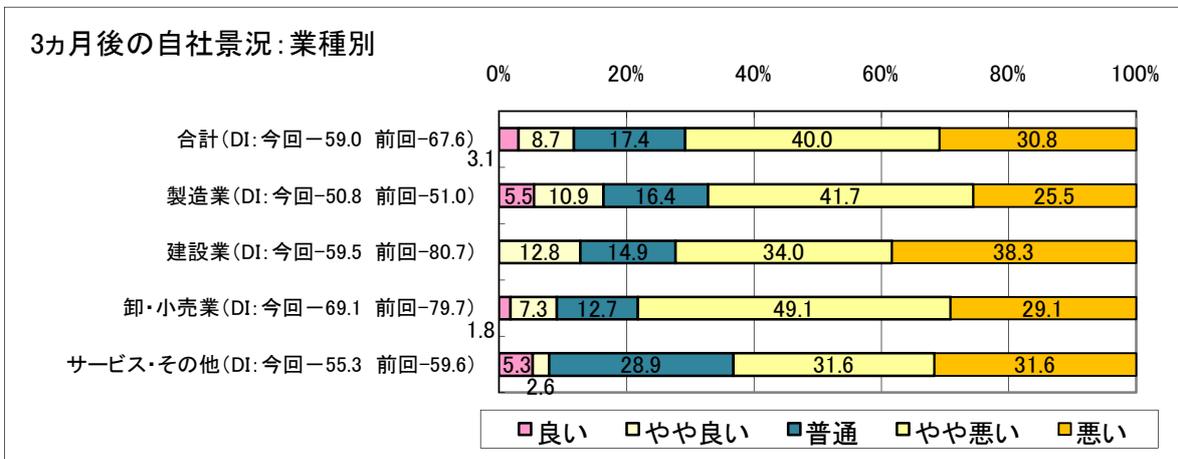
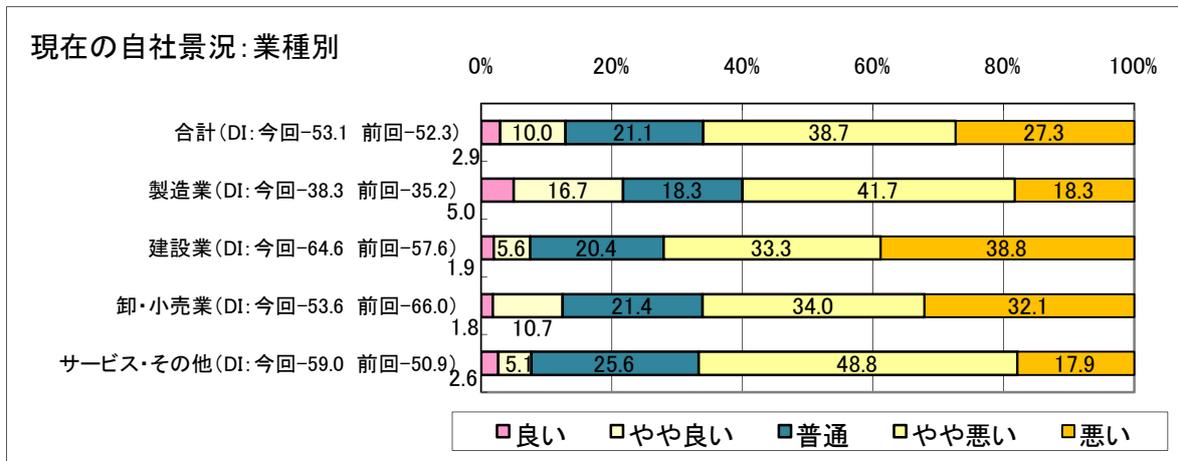
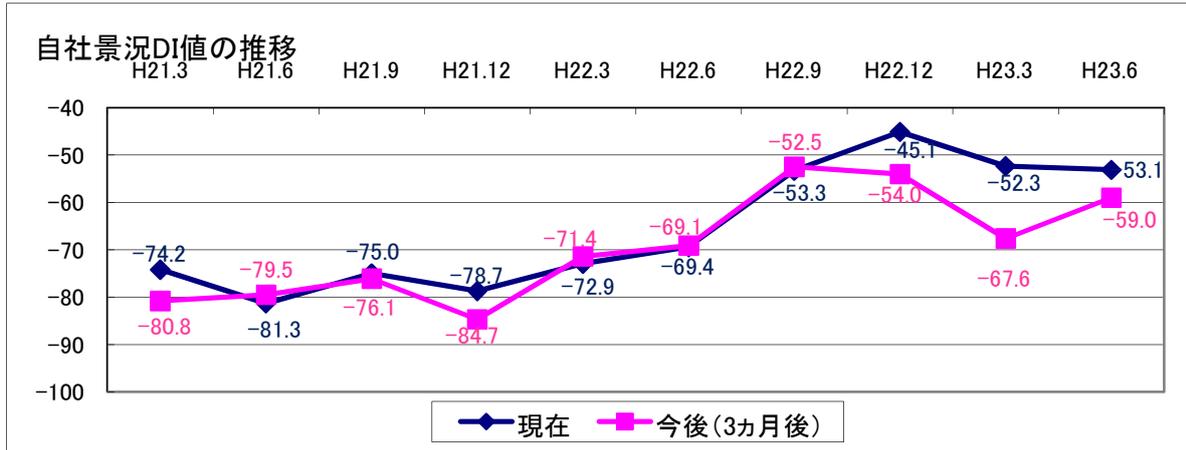


## 【自社の景況】

～「現在」は横ばい 「先行き」は全ての業種で改善を予想～

自社の景況感をみると、現在のDI値は▲53.1となり、前回調査（H23年3月）に比べ0.8ポイントダウンし、前回調査より2期連続悪化した。業種別にみても、「卸・小売業」以外の業種で悪化している。

今後3ヶ月の先行DIは▲59.0となり、前回調査（H23年3月期）より8.6ポイント改善。業種別では、前回調査（H23年3月）で大幅な悪化を予想した「建設業」で改善幅が大きくなった。震災直後に行った前回調査に比べると、「現在」と「先行き」の幅の開きが小さくなったことから、先行きの不安感は軽減したものの、依然低水準での推移を予想。

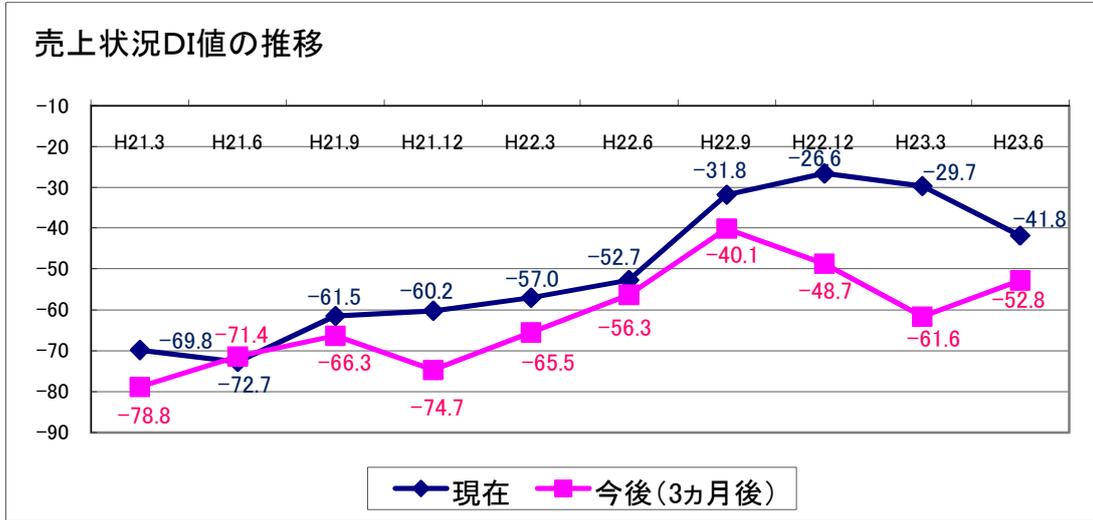


【売上（受注高）】

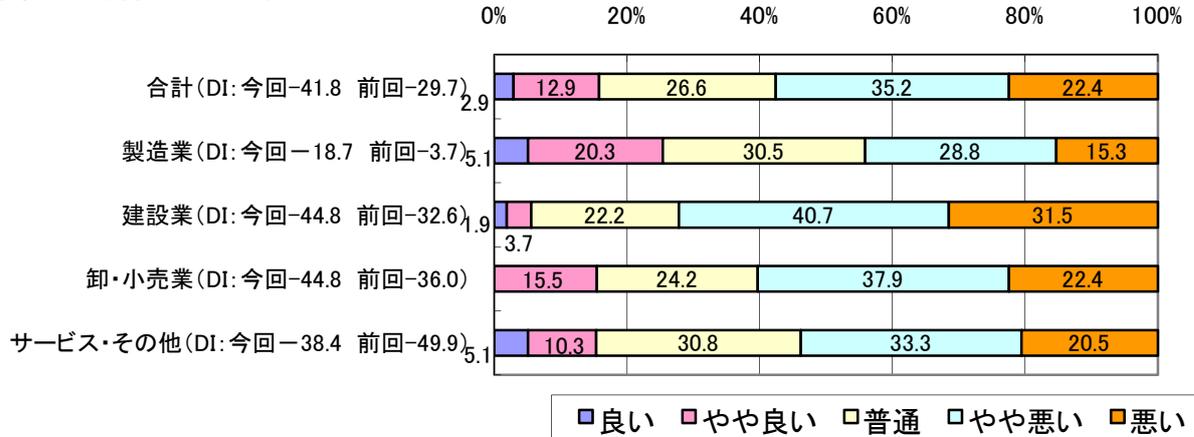
～「現在」で売上（受注高）減少傾向 「先行き」は改善予想も未だ低水準～

売上（受注高）については、現在のDI値は▲41.8ポイントと前回調査より12.1ポイントダウン。業種別にみると、「サービス・その他」以外の全ての業種で悪化しており、特に「製造業」、「建設業」が大幅な悪化。

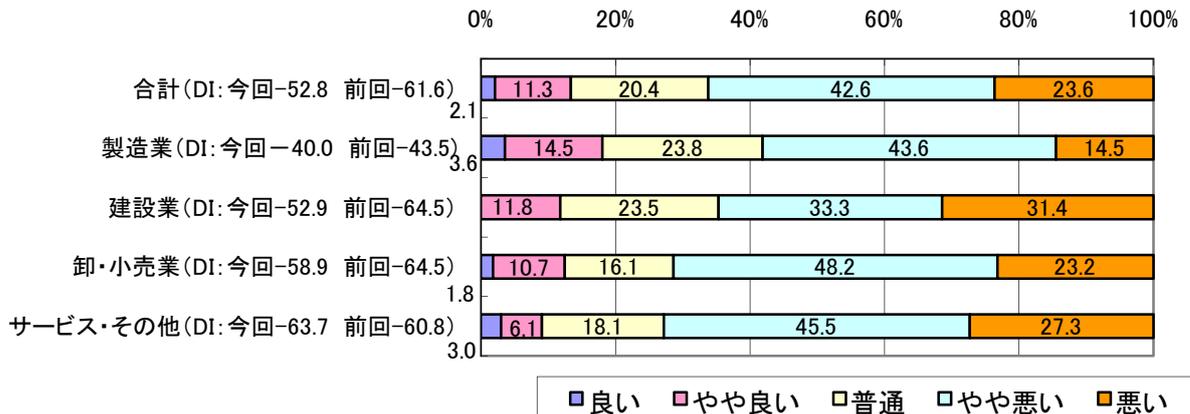
3ヶ月先の先行DI値は、▲52.8と8.8ポイントの改善はしたものの、低水準で推移。業種別にみると、「サービス・その他」以外の全ての業種で改善を予測。



業種別：現在の売上状況



業種別：3か月後の売上状況



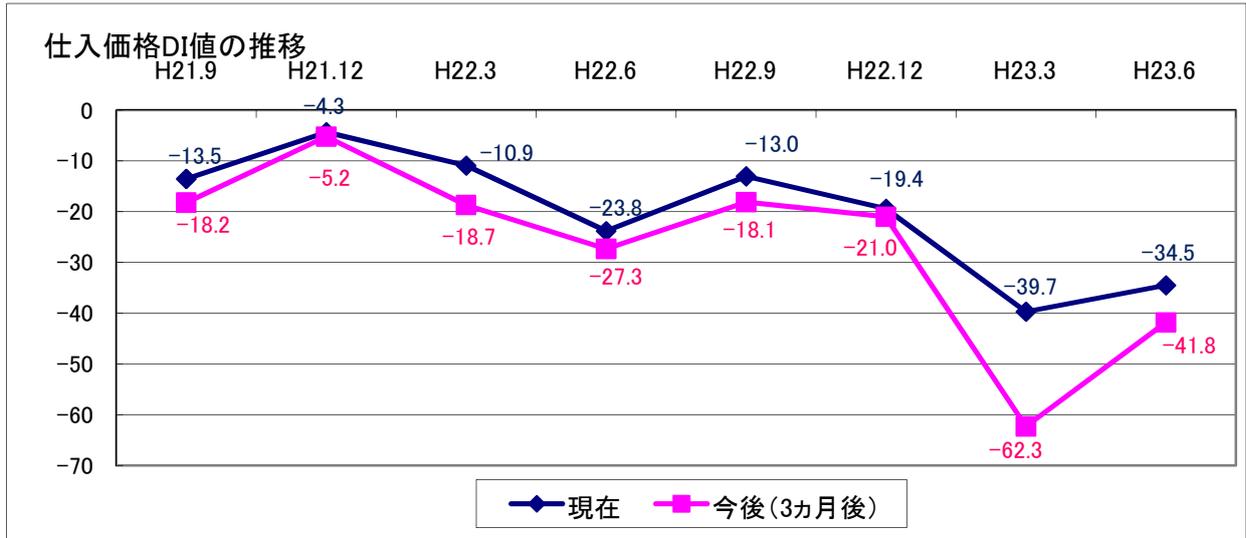
## 【仕入価格】

～「現在」「先行き」ともに改善傾向も震災前の水準には戻らず

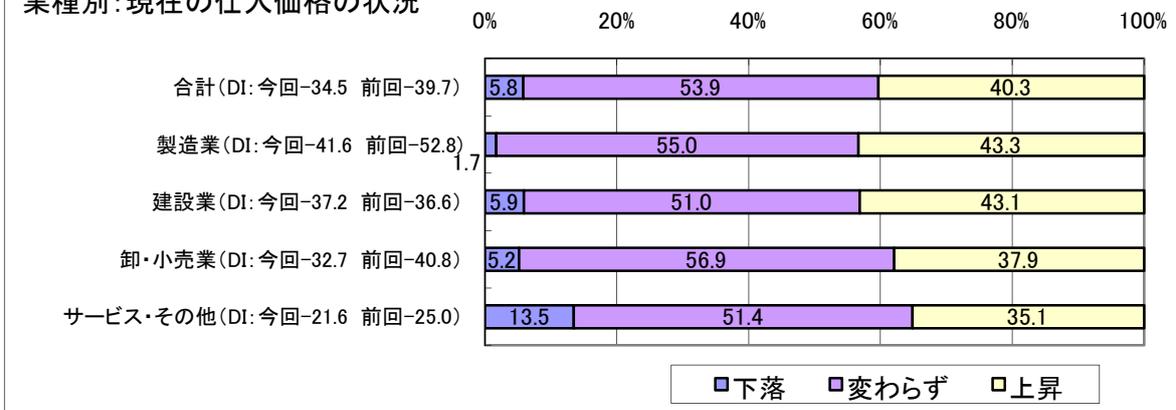
「製造業」「建設業」は「先行き」の仕入価格低下に期待～

仕入価格は現在で▲34.5ポイント、3ヶ月後の先行DIで▲41.8ポイントとなり、依然低水準ではあるがともに改善傾向。仕入価格は前回調査をピークに落ち着きがみられる。特に先行きについては、20.5ポイントと大きく改善し、先行きの不安感は軽減してはいるが、依然低水準には変わらない。

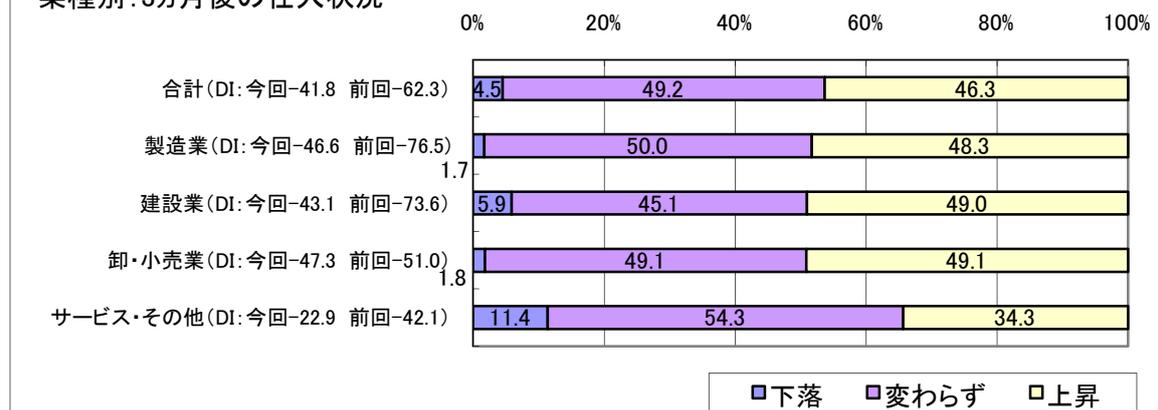
業種別にみると、「建設業」の「現在値」を除き全ての業種で改善を予想。「製造業」、「建設業」については、先行きの仕入価格低下に期待している。



### 業種別：現在の仕入価格の状況



### 業種別：3ヵ月後の仕入状況



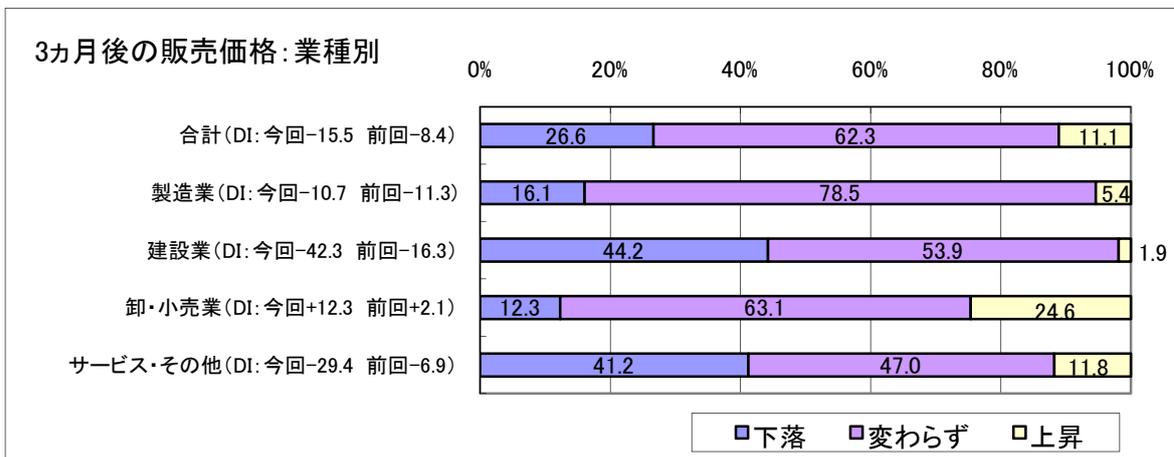
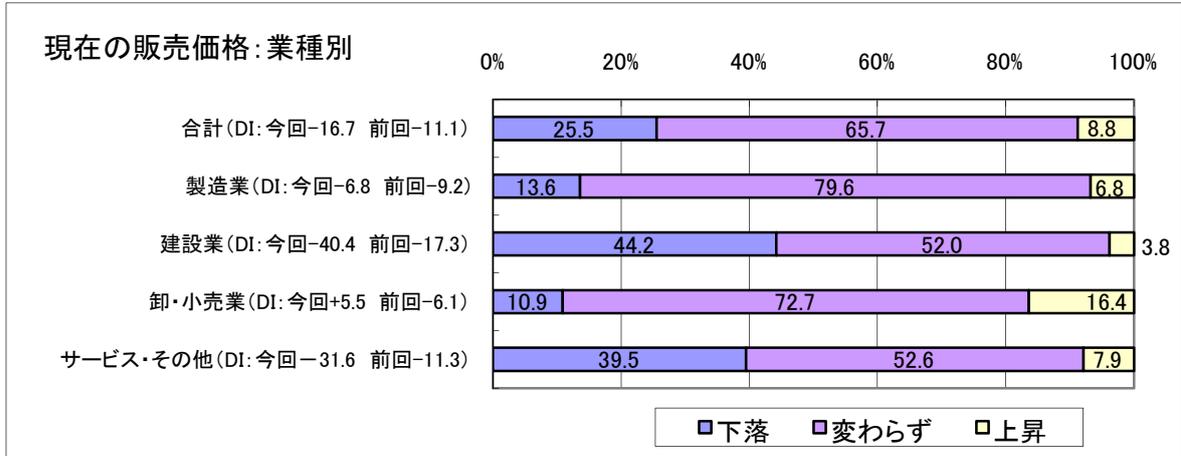
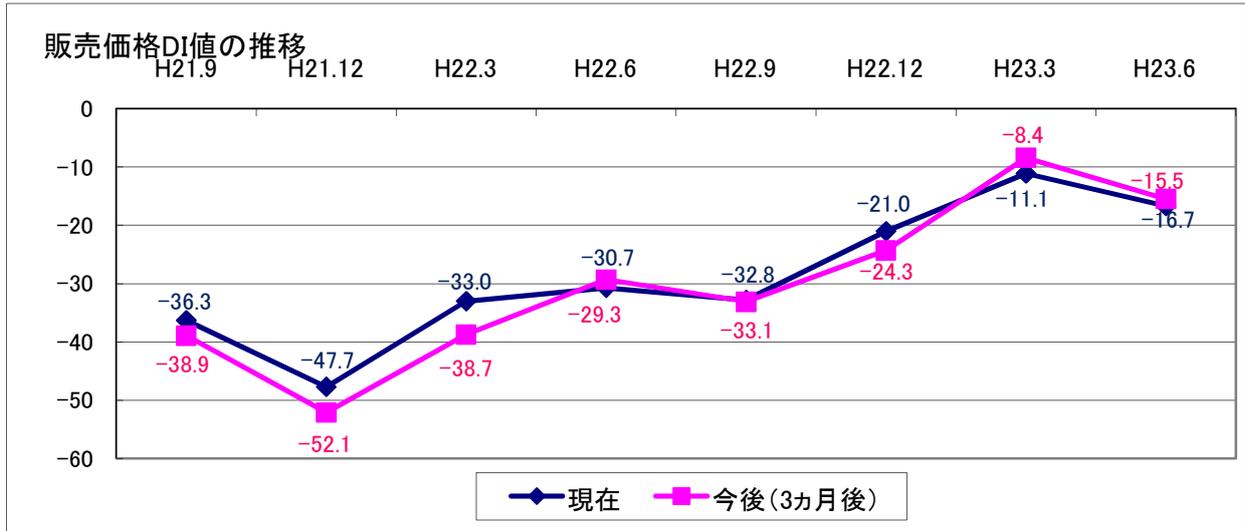
## 【販売価格（単価）】

～販売価格（単価）は3期ぶりに低下に転じる

特に「建設業」、「サービス業・その他」で全業種と比べ悪化傾向に～

「現在」のDI値が▲16.7で前回と比べ5.6ポイント、今後3ヶ月の先行では▲15.5で7.1ポイントダウン。

「現在」、「先行き」とともにH22.9月期調査以降3期ぶりに悪化に転じており、今後もその状況が続くと予想している。特に「建設業」、「サービス業・その他」ではどちらも大幅な悪化となっており、建設業では競合との競争激化による販売価格（単価）の低下、サービス業・その他では消費者の購買意欲や節約志向の広まりが要因となっているという声が聞かれた。



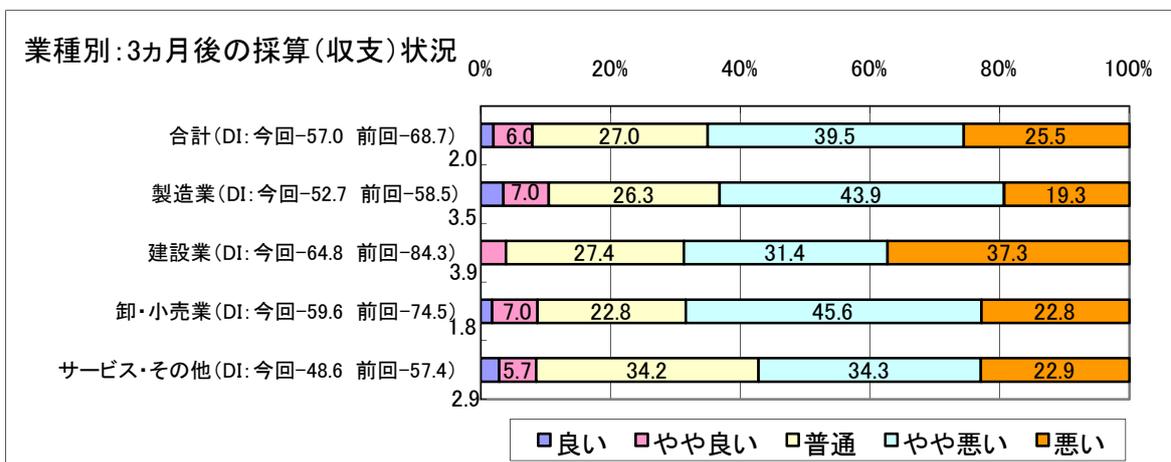
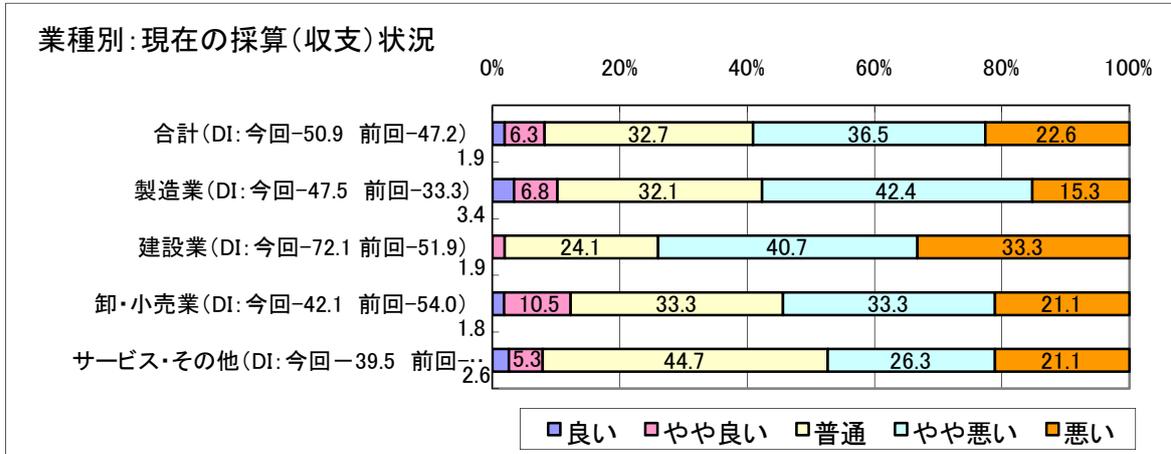
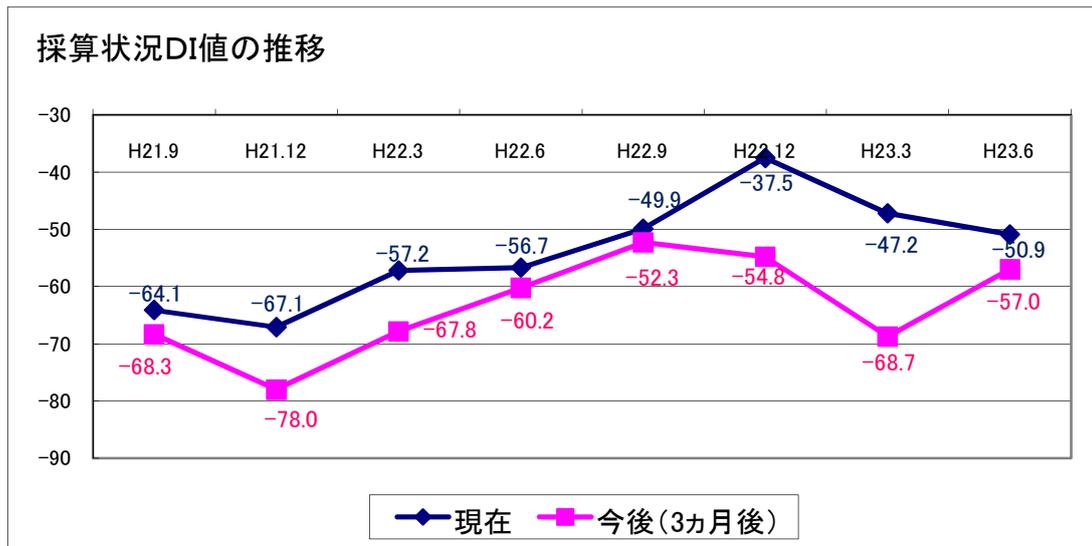
## 【採算（収支）状況】

～仕入価格改善傾向も 販売単価の低下により採算は悪化

「先行き」は全業種で改善示すも未だ低水準～

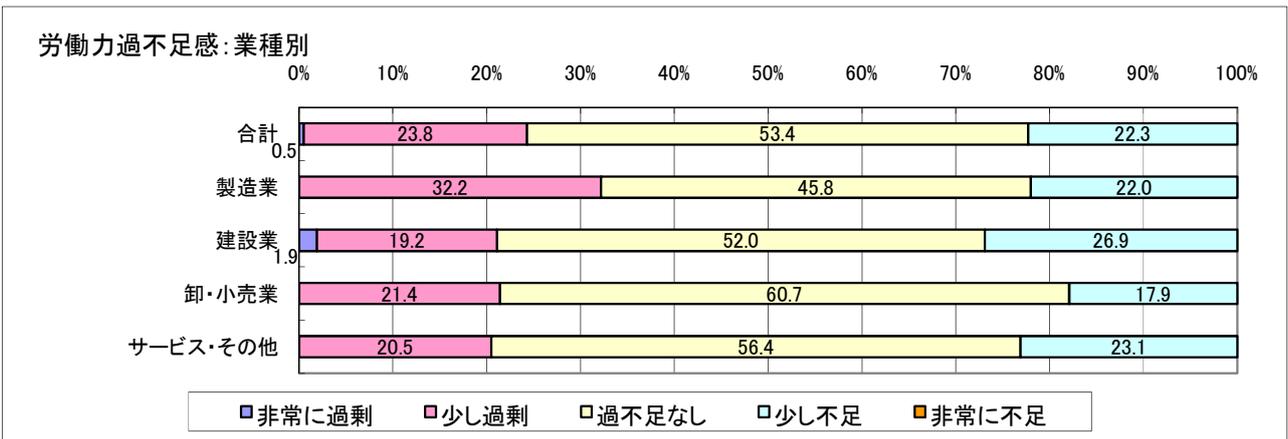
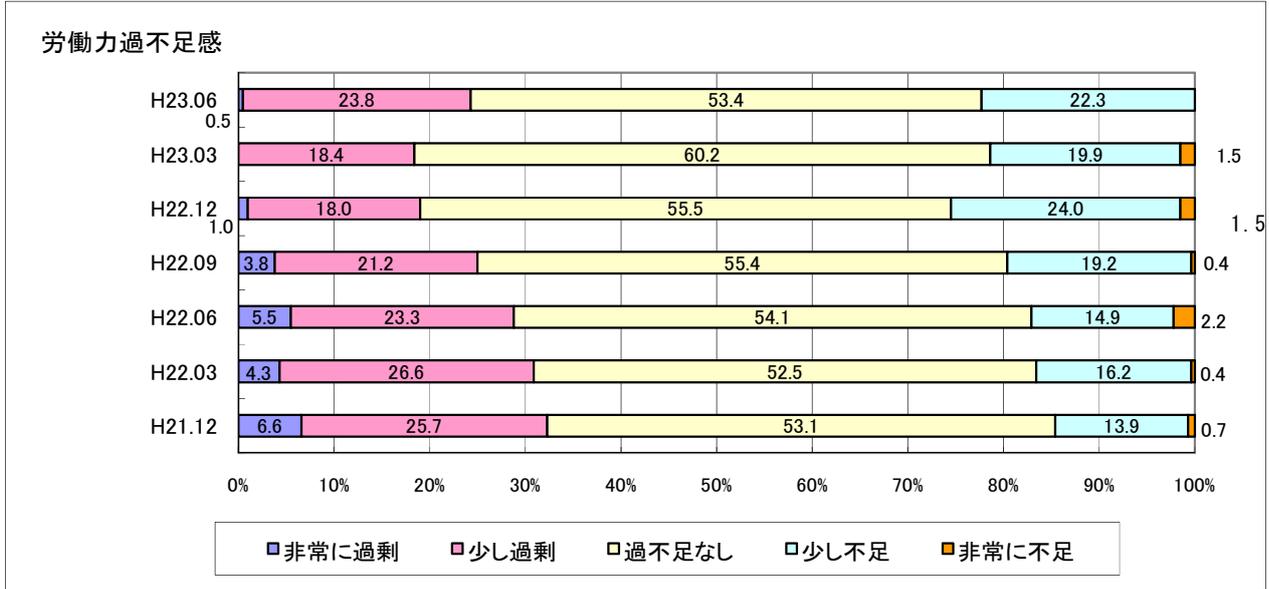
現在DI値は▲50.9と前回に比べ3.7ポイントダウンし、H22年12月期から2期連続悪化、3ヶ月後の先行DI値は▲57.0で前回比11.7ポイント改善。現在DIを業種別にみると、「卸・小売業」、「サービス業・その他」が改善し、それ以外の業種では悪化。特に「建設業」では全業種と比べ大きな悪化となっている。

一方、3ヶ月後の先行きは、震災の影響を大きく反映した前回調査に比べると、全業種で改善を予想しており、先行きの不安感は震災前の水準に戻っている。



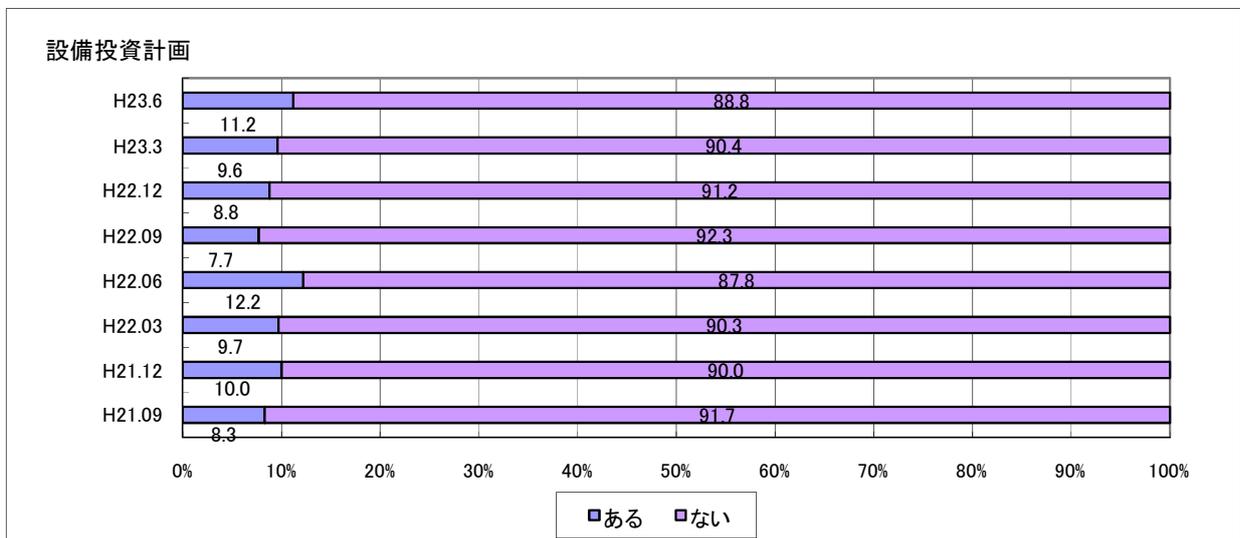
### 【労働力の過不足感】

「過剰」（「非常に過剰」「少し過剰」と回答する企業は 24.3%で前回調査より 5.9%増加、「不足」（「少し不足、非常に不足」と回答する企業は 22.3%と前回より 0.9%増加、「過不足なし」が 53.4%と前回より 6.8%減少。製造業を中心に過剰感がやや高くなった。



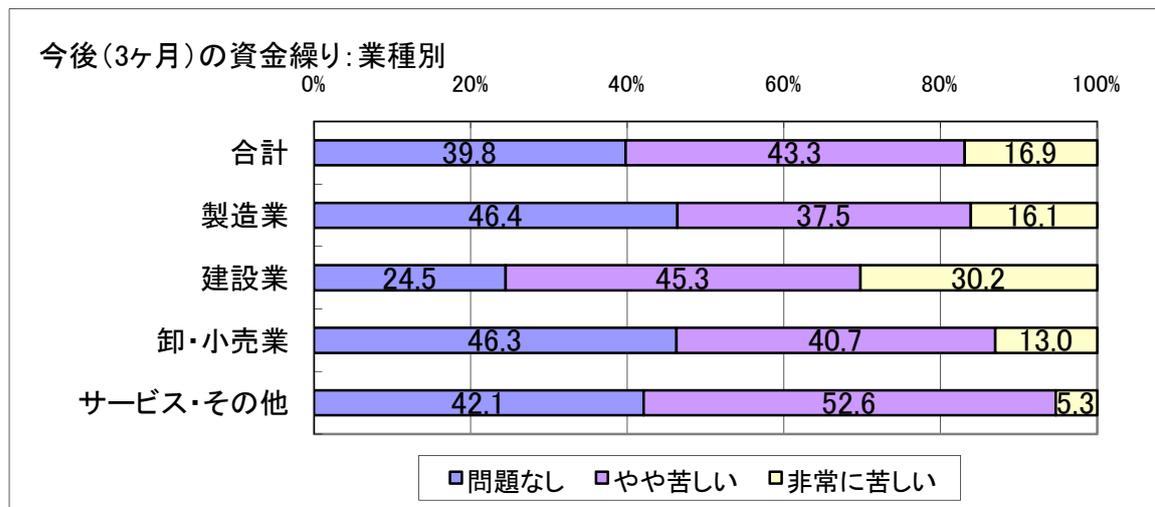
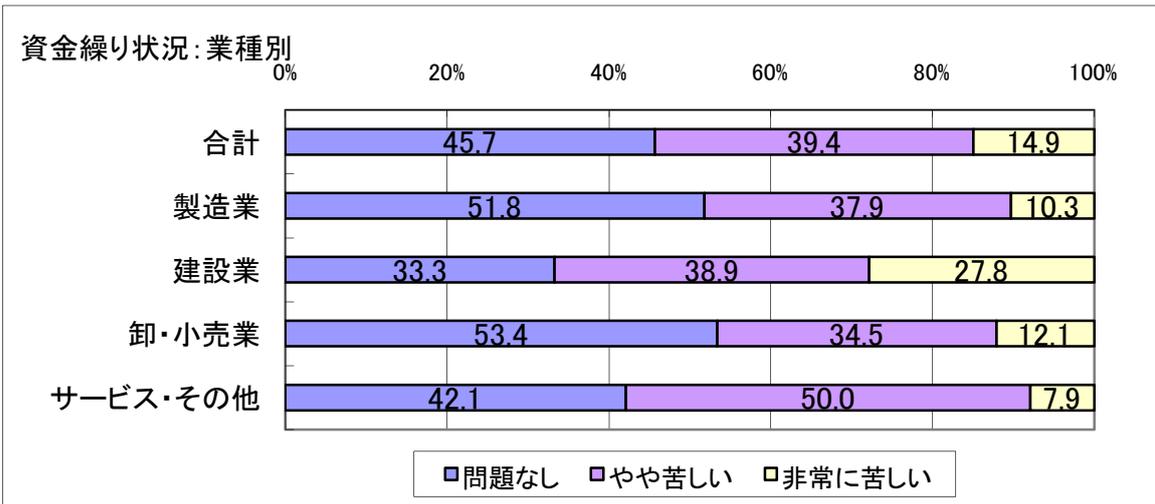
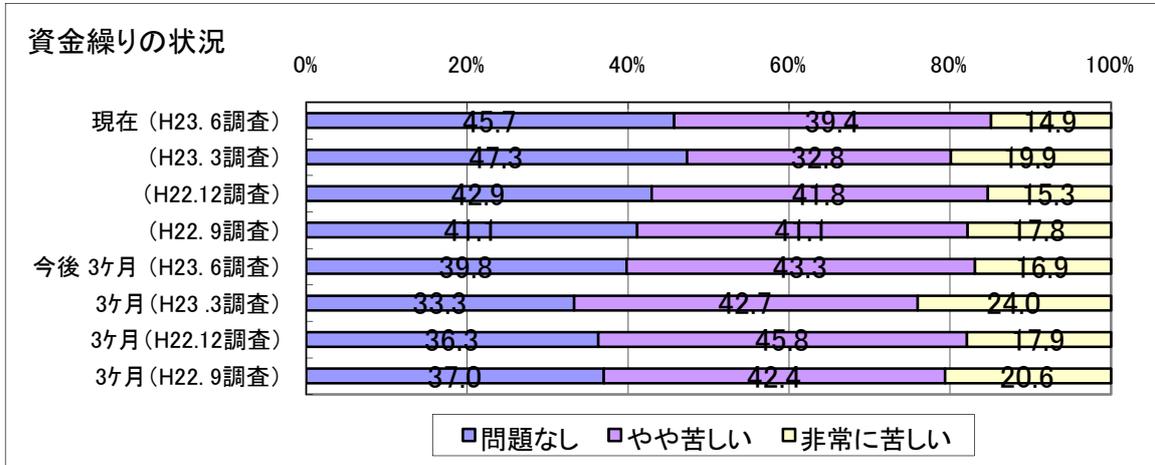
### 【設備投資計画】

今後 3 ヶ月以内の設備投資計画が「ある」と回答した事業所は 11.2%となり前回調査（H22 年 12 月期）より 1.6%増加したが、全体的に動きは弱含みである。



## 【資金繰り】

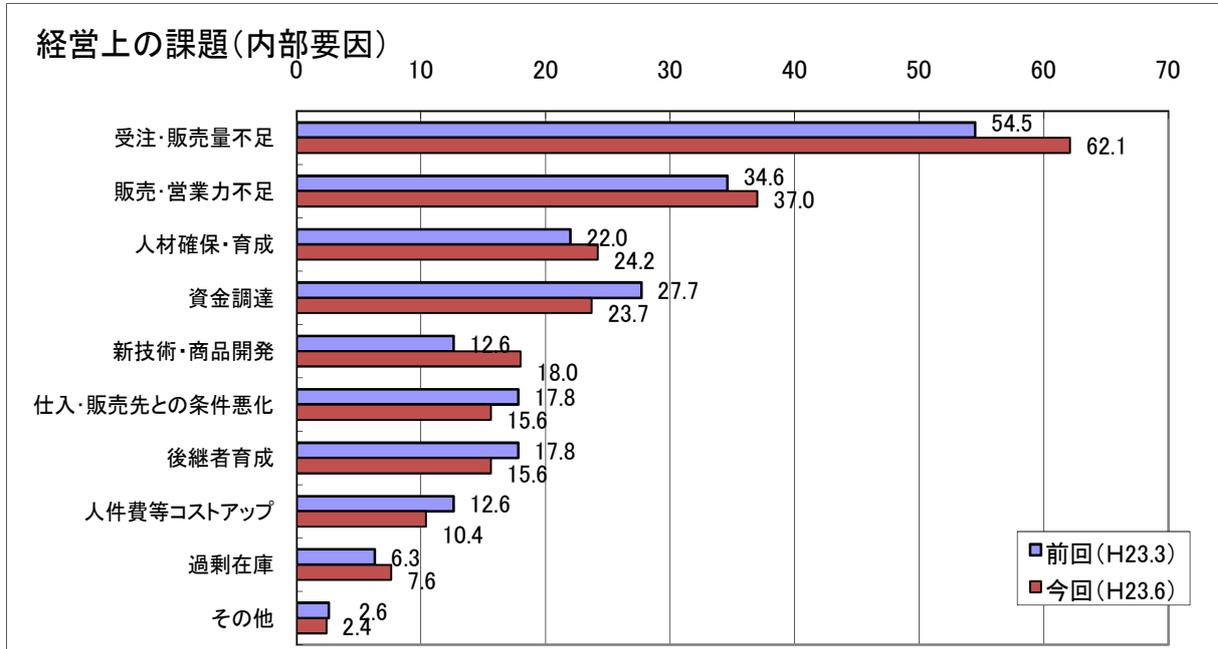
現在の資金繰り状況について、54.3%が「苦しい」（「やや苦しい」「非常に苦しい」と回答している。また今後3ヶ月後の予想では60.2%が「苦しい」と予想しており、依然として中小企業の資金繰りは厳しい状況。「今後」、「先行き」とともに、特に「建設業」では資金繰りが苦しいと予想している。



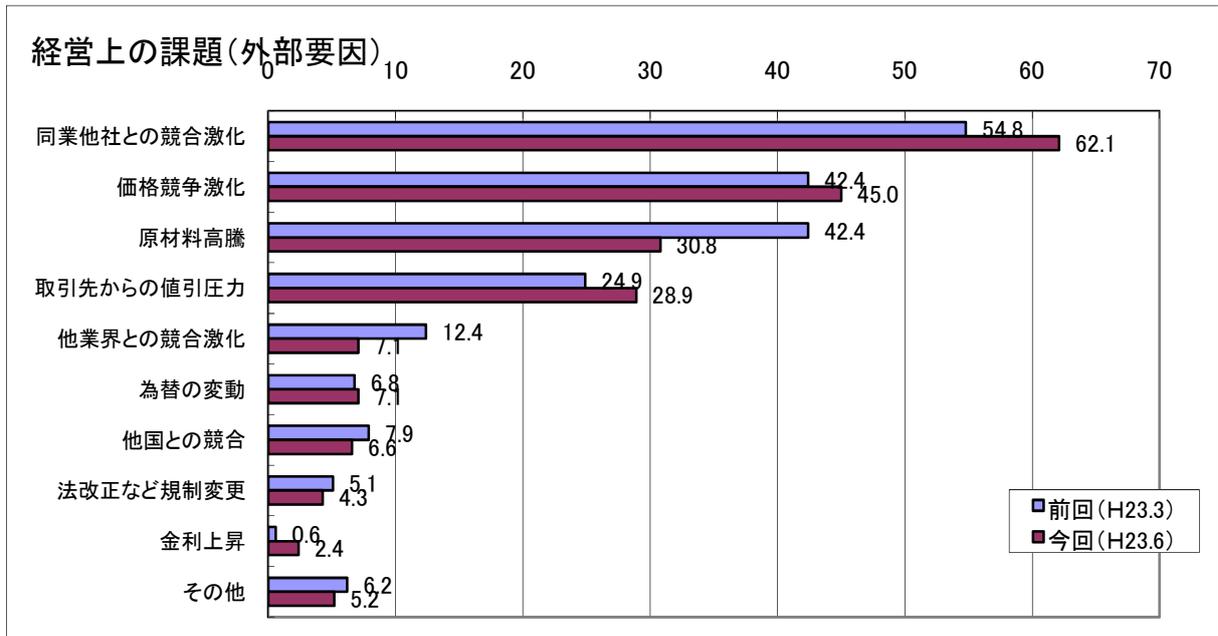
【経営上の課題】 (複数回答)

内部要因では「受注・販売量不足」と回答している企業が最も多く 62.1%、次いで「販売・営業力不足」37.0%、「人材確保・育成」24.2%と続いている。

上位3項目では特に「受注・販売量不足」が7.6%増加しており、業種別では「建設業」、「卸・小売業」で回答した割合が高い。



外部要因としては「同業他社との競合激化」が最も多く 62.1%、次いで「価格競争激化」が45.0%、「原材料高騰」が30.8%となり圧倒的に多くなっている。「原材料高騰」は前回調査に比べ11.6%減少しており、震災直後に行った前回調査より原材料価格の落ち着きがみられることが分かる。

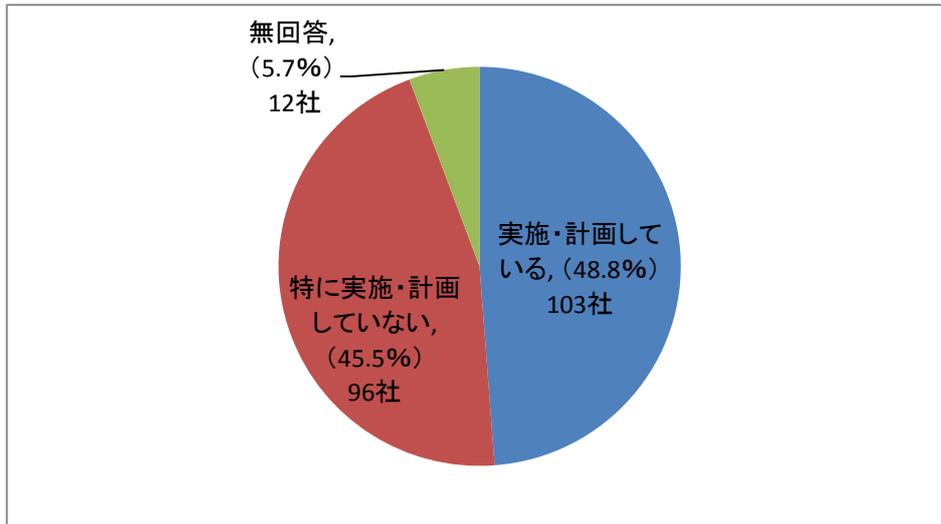


【緊急時の対応策】

●緊急時の対応策について（1つのみ回答）

震災等自然災害による緊急事態に遭遇した場合に備え、対応策を実施・計画しているかを聞いたところ、「実施・計画している」と回答したのは約半数の103社（48.8%）にのぼり、一方「実施・計画していない」と解答したのは約半数の96社（45.5%）となった。

規模別にみると、従業員規模が大きくなるにつれて、実施・計画している割合が高まっている。



●どんなことを実施・計画しているか？（複数回答）

前項目で「実施・計画している」と解答した事業所103社に、どんなことを実施・計画しているか質問したところ、「重要データ・書類のバックアップや保管」が最も多く62社、次いで「社内緊急連絡網の整備・確認」が53社と続く。

項目別にみると、「社内緊急連絡網の整備・確認」や「社内の役割分担体制の整備・確認」は、従業員規模が大きくなるにつれて必要性が高まる傾向にある。

（単位：社）

